

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2)

事業所番号	0170401780		
法人名	株式会社Human-system Japan		
事業所名	グループホーム 自由の大地		
所在地	札幌市手稲区稲穂3条2丁目11-7		
自己評価作成日	平成29年8月1日	評価結果市町村受理日	平成29年11月27日

※事業所の基本情報

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&jigyosyoCd=0170401780-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	平成29年10月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

手稲の高台に位置し、遠くは石狩湾や暑寒別岳が望め景色(夜景も)のすばらしく、環境豊かな施設です。そんな環境の中で、介護保険制度の理念を下に、地域に溶け込んだ穏やかで楽しい生活を過ごして頂けるように職員一丸となって努力しています。また、実践者研修の外部研修を受け入れている施設でも有り、認知症に対しての対応の仕方を、実習生に対してしっかりと指導出来るよう社内研修に力を入れております。また、近隣の障がい者施設や児童デイとの交流を深める等、地域ケア推進にも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は札幌市西方向の手稲区に位置し、JR手稲駅南口から徒歩圏内の高台にあり、閑静な住宅地に2階建て2ユニットのグループホームである。事業所の敷地は約500坪と広く、草の手入れや冬季間の除雪は職員の大仕事だが、外気浴や散歩、バーベキューなどの行事や花壇、菜園、駐車場として、有効に活用している。また、高台の為、リビングの窓からは札幌市内手稲区や銭函、石狩湾などが望め、季節を感じて、いつまでも眺めていられる程の眺望である。法人は、居宅介護支援事業所や訪問介護サービス、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、クリニック併設型複合サービス付き高齢者向け住宅、児童デイサービスなど幅広い分野で展開しており、培った経験が活かされている。特に系列の児童デイサービスの子供達との交流は楽しみな機会となっている。ホーム内は、廊下も幅広く、リビングもゆったりしており、家族用に個室もあり、普段は町内会に開放している。また、ホーム内は整理整頓され、実習生も受け入れるなど、家庭的で居心地がいいグループホームであり、これからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらい				2 家族の2/3くらい
			3 利用者の1/3くらい				3 家族の1/3くらい
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある			○	3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが			○	2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に溶け込んだ、自由で尊厳のある楽しい生活を支援します」と、当ホームのケア理念を事務所や職員の控室等に掲示して、理念に沿った支援をするべく努力をしています。	事業所のケア理念は、職員で検討して作成したもので、事務室内に掲示し、年2回の全体会議で、理念について振り返り、職員間で共有し実践につなげている。	ケア理念は、事務室内に掲示し、全体会議で振り返りを行っているが、リビングや事業所内にも掲示し、利用者や家族にも周知する。また、ケア理念から毎月の目標を決めてケアの実践に努めるよう期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事への参加を町内会に働きかけ参加して頂いています。また、町内会の行事にも参加しています。	法人内児童デイサービスの小学生が職業体験に来訪し賑やかな交流をしている。事業所主催のバーベキューや流しソーメンなどの行事にも地域の方が参加して日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に運営推進会議において、「口腔ケア」・「応急処置」等の勉強会を行い地域住民に発信しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、ご家族様・町内会代表と地域包括支援センターの職員さんに参加していただき評価して頂いています。	運営推進会議は、地域包括支援センター担当者や地域の方、民生委員、家族が参加して、定期的に開催し、運営状況の報告や意見や要望を聞く機会となり、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談や質問があるときは区役所の保険福祉課に連絡を取り相談しています。ホーム内においても担当者や利用者本人を交えて相談を行う事もあります。	毎年手稲区で行っている、ふれあいフェスティバルの施設見学会に協力参加している。また、区担当や保護課とは連絡や相談など連携して、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてカンファレンスを開く等、日々努力しています。玄関の施錠は防犯上の理由から夜間のみ行っています。	身体拘束をしないケアについては、マニュアルを整備して、新人研修や外部研修会に参加して学んでいる。また、介護度が重い方いるときは、虐待防止推進委員会を設置して、検討しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度8月に北海道高齢者虐待防止推進研修会に職員2名参加、虐待防止に努めています。12月にも予定されている研修に数名参加予定です。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議の中で講師を招き、権利擁護（虐待・身体拘束・後見制度等）についての研修会を開催、研修を振り返り実践出来るように努めています。ただ、現在後見制度を利用されている利用者様はおりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時には、重要事項、契約書の説明を行い同意を得ています。重要事項改定時や退所の際にも、同様説明を行い同意を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱は一階・二階にそれぞれ設置し 日常生活の中での、不平・不満を聞き改善していくように話し合っています。	ホームの運営状況は、毎月ホーム便りを発行し、利用者の生活状況は、毎月お手紙を書いて家族へ報告している。意見箱は玄関に設置し、家族がバーベキューなど事業所の行事の他、来所時に意見や要望を聞いており、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	合同会議・フロアー会議やミニカン ファレンス等を開催。その中で職員が 何でも言えるような関係づくりをしています。	ユニット会議は、2ヶ月に1回行っており、全体会議は年2回実施している。モニタリング等カンファレンスは毎月行っており、個人面談は代表者にて年1回以上行い、意見や提案は運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得で講習会の参加のための勤務調整及び資格手当の付与や、給与についても国の制度を最大限活用しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や社内研修は積極的に行っています。本年度は介護福祉士実務者研修に2名参加しています。また、実践者研修も1名参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者会議や手稲区グループホーム協議会には必ず参加して意見交換を行い、結果を職員全員に伝えています。一般職員間でも、他施設との交流など情報交換を行い向上に努めています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の気持ちを尊重し親身になってお話を聞き、安心に繋がるような関わりを心がけています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する前に家族様と困っている事や不安な事を話し合い、少しでも軽減できるように努めています。入所後も面会や電話等で密に連絡をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族様と話し合い、本人に合ったサービスを提供出来るように支援しています。諸手続きに関しても当施設で出来る限りのサービスを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様には人生の大先輩として敬意と尊敬を持ち、本人の残存能力を発揮出来るように心がけています。また、出来ない部分においては共に支え合う生活を送って頂いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の面会時や広報を通して、情報を提供しています。行事(クリスマス会・敬老会等)にも参加して頂き一緒に楽しんでいます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には馴染みの家具・写真等を持ち込んで、今まで生活されていた空間と同じような環境作りをしています。また、馴染みの人とは関係が途切れないように常に連絡を取り合っています。	利用者の出身地が地元出身が多いため、家族や友人知人の来訪が多い。墓参りや寿司屋などの馴染み店は家族が同伴して行っているなど関係が途切れないように連絡などして支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同作業(家事手伝い)や行事・レクにおいて、個人を尊重し、孤立することなく利用者様同士が仲良く暮らすことが出来るような雰囲気作りをしています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者様(入院・施設入居)からの近況報告を受けています。入院の際には、見舞いに行ったり、訃報の際は葬儀に参列しています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間の情報共有し、本人や家族様から意見を聞き、今何が必要なのかを日々の関わりから導き、本人の希望が叶えられるように努めています。	本人や家族から意見や要望を聞き、職員間で情報共有して、本人が望んでいるものを、日々の関わりから導き、本人の希望をかなえられるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、本人や家族・親戚からの情報を得て、環境の変化にもしっかりと対応出来るように基本情報・フェースシートを回覧しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士情報を共有し、入居者様の希望に沿った生活を送る事が出来るように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の希望を取り入れ、介護保険制度の理念を元に本人の望むケアプランを作成しています。また、状態の変化が見られた際は、カンファレンスを開催作成しています。	本人や家族から意見や要望を聞き、その情報を踏まえて、モニタリングを毎月行い課題整理し、全員でのカンファレンスで検討して、介護計画の原案を作成し、サービス担当者会議を行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の充実、必要性を認識し実践しています。この記録を元に次のケアプラン作成に反映しています。介護記録に関しては、職員個々に記録記載について説明しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ、病院受診や送迎等必要に応じて対応しています。行政での手続きの代行、必要物品の購入等の支援も行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣住民やボランティアの方々・児童福祉サービスの子供達に協力して頂き行事を行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医師による月2回の往診と週1回の訪問看護等、24時間連絡可能な体制を取っています。また、歯科往診と歯科衛生士による口腔ケアも毎週のように行っています。	従来からのかかりつけ医の受診は、家族同行だが、行けないときは職員が同行している。協力医療機関は3ヶ所あり、月2回の訪問診療と24時間体制で、訪問看護師は毎週巡回があり、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を毎週受け健康管理を行って頂いています。また、緊急時や、他医院受診の際にもすばやく対応出来る体制を整えています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に、すぐに情報提供しやすいようにファイルに書類を収めています。また、関係医療機関との連携、早期退院に向けての準備もしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入所契約の際、ホームでの対応出来る最大のケアについて説明しています。関係医療機関との連携も密に行っており、往診時には医師より急変時対応の指導を頂いています。	入居契約時に終末期の看取りはしない方針の理解と同意を得ており、重度化した場合は医師の指示に基づき家族と打ち合わせして、急変時の対応を連携して行っている。	事業所の方針として、終末期等の看取りはしない方針だが、急変時の対応も含めて、看取りに至る事態も想定して、マニュアルの整備を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	わかりやすい緊急時マニュアルを作成し、見やすい場所に掲示しています。また、救急救命の研修の受講を職員に勧めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中・夜間を想定し避難訓練を行っていますが、地域住民の方の見学はありますが、参加はして頂いていません。今後の課題です。また、災害に対する訓練も行いたいと思っています。	避難訓練は、消防署の指導の下、年2回定期的に実施しており、マニュアルや備蓄など整備して地域との協力体制を築くよう取り組んでいる。	避難訓練は定期的に2回実施しているが、緊急通報システムに地域の方の登録や参加協力、また、停電時の発電機や簡易ストーブの備品の整備など火災以外の災害対策を地域の方の協力も含めて築けることを期待したい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様には敬意と尊敬の心を持ち、普段からの態度や言葉使いには気を付け接するように心掛けています。	人格の尊重とプライバシーについては、新人の場合は、社内研修で教育しており、職員には、日常的にケアの中で指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定に向けて、一つひとつの行動に対して本人の意志を尊重した支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	共同生活において決められた事は一緒に行って頂いていますが、入居者様の意志を尊重し、その人らしい生活を送る事が出来るように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1度、理容師に来て頂き散髪しており、希望があれば行きつけの美容室でパーマや毛染めをしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時々ピクニック風に前庭でお握りを食べたり、バーベキュー等を楽しんでいます。片付けは、出来る利用者様には職員と一緒にしています。	食事担当委員が2名おり、毎月利用者の好みのメニューを考案している。利用者は食材の下準備や片付けなど職員と一緒にしている。行事食では前庭でのバーベキューや流しそうめん、外食では、和風レストランやハンバーガーショップなど楽しい食事を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事担当者による、バランスの取れた食事を提供しています。水分は本人の 好みの飲み物を用意しており、摂取量のチェックも怠っていません。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師・歯科衛生士(訪問口腔ケア) と協力を図り、個別指導して頂き、毎食後ケアを実行しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の排泄のパターンを把握しトイレ 誘導を行っています。訴えの無い利用者様には排尿サインを把握しトイレ誘導をしています。現在一人もおむつ使用 者はいません。	利用者個々の排泄パターンのチェック表を職員間で共有し、利用者一人ひとりの仕草や表情を見ながら、声掛け誘導し、トイレでの自立した排泄に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すように、水分や乳製品の摂取に心がけ、体操や廊下での歩行訓練等の身体を動かす運動等を行なっています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	利用者様の希望に合わせて入って頂いていますが、朝風呂や夜の入浴は、介護職員が少ないため行っていません。また、発汗や汚染等その時々状況に合わせて入浴して頂いています。	浴室はユニット型で、週2回以上の入浴をしている。自立して入浴できる利用者やシャワー入浴は頻繁にだが、利用者の個々の状態に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促進し、生活のリズムを整えるように努めています。夜間は室温調整や照明調整を行い良眠に繋げています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を把握出来るよう薬品説明書をファイルしています。また、与薬・内服確認は全職員がチェック出来るシステムにしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の出来る事を把握し、家事全般のお手伝いをして頂いています。また、ゲームの好きな利用者様は職員と一緒に楽しんでいます。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園への散歩や希望に添ってスーパー等買い物に出かけています。歩行困難な方は、車椅子と介護車両を使用し外に出かけるよう支援しています。	前庭や駐車場が広いので、ベンチを出して、外気浴やランチをしている。近隣の公園などには日常的に散歩している。外出行事は、百合が原公園や前田森林公園、JRタワー展望室など介護車両を活用して外出行事も積極的に支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホーム管理としていますが、必要に応じて、本人に手渡し支払い出来るように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の許可の取れている所には自由に電話を掛けています。また、毎年年賀状も書いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは景色や採光が良く、ソファを置きゆったりとくつろげる雰囲気を作っています。壁などは季節に合わせ職員が工夫をこらした飾り付けをしています。	共用空間は、採光や風通しもよく、広くゆったりしている。リビングの窓は高台な為、眺望が良く、一連の風景が見渡せ、寛ぎのリビングである。また、家族の宿泊用の部屋があり、町内会の婦人部に開放している。前庭が広く、菜園もあり、季節を感じられるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様が楽しく過ごせるように、ソファの配置に配慮しています。利用者様は其中で思い思いに過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の馴染みの家具や写真類を持ち込んで頂き、居心地良く過ごせるように入居時に説明しています。利用者様もそのようにされています。職員は転倒に繋がる家具等の環境整備に努めています。	居室には、大きな収納があり、配慮している。利用者は、使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを廊下・トイレ・階段に設置しています。浴槽は手すりや、介助バーもあり、2階への上り下りには階段の他エレベーターも設置しています。		